令和８年度（2026年度）採用
愛知県公立学校教員採用選考試験の採用予定人員等

愛知県教育委員会

Ⅰ　日　程

(1)　受験案内の配布　令和７年４月25日（金）から、受験案内と願書等をダウンロードできます。
　　教職員課 Webページ　https://www.pref.aichi.jp/site/kyoinsaiyou/

(2)　出願受付期間　令和７年４月25日（金）午前10時～令和７年５月９日（金）午後５時
　　※原則、インターネット（電子申請）により、出願してください。

(3)　試験日　第１次試験　令和７年６月14日（土）
　　第２次試験　１日目　令和７年７月19日（土）　２日目　令和７年７月20日（日）

Ⅱ　受験区分

受験区分		採用予定人員	教科（科目）
小学校教諭		約730人	
中学校教諭		約400人	国語　社会　数学　理科　音楽　美術　保健体育　技術　家庭　英語
高等学校教諭		約290人	国語　地理歴史　公民　数学　理科　音楽　美術　保健体育　家庭 英語　商業　工業（機械）　工業（電気）　工業（建築） 工業（デザイン）　農業　水産（情報通信）　情報　福祉　看護
特別支援学校教諭	小学部	約150人	
	中学・高等部		国語　社会　数学　理科　音楽　美術　保健体育　技術　家庭　英語　工業（機械）
養護教諭	小・中学校	約 43人	
	県立学校	約 12人	
栄養教諭	小・中・県立（中・特別支援）学校	約 10人	

注意　1　日本国籍を有しない者は、任用の期限を付さない常勤講師に任用します。
　　2　受験区分及び教科（科目）について一つのみ出願できます。
　　3　採用予定人員は現時点における一応の目安であり、変更することがあります。
　　4　採用予定人員の変動により、受験した受験区分以外の校種（特別支援学校の部を含む。）の要員として合格又は補欠とすることがあります。
　　5　小学校教諭及び中学校教諭の採用者については、一定期間を経過した後に小学校及び中学校の校種間で異動することがあります。
　　6　栄養教諭については、県立中学校及び特別支援学校へ配置されることがあります。

Ⅲ　令和７年度採用教員採用選考試験（令和６年度実施）の実施状況（令和７年４月１日現在）

区分教科（科目）		受験者(A)	合格者(B)	補欠者	繰上者(C)	倍率(A／(B+C))
小学校教諭		1,741人	710人	120人	46人	2.3倍
中学校教諭	国語	132	73	40	7	1.7
	社会	232	54	20	6	3.9
	数学	162	64	26	7	2.3
	理科	94	51	19	7	1.6
	音楽	116	24	10	3	4.3
	美術	32	18	0	0	1.8
	保健体育	399	49	10	1	8.0
	技術	15	10	0	0	1.5
	家庭	30	17	4	0	1.8
	英語	162	70	40	9	2.1
特別支援学校教諭		366	170	23	9	2.0
小・中学校養護教諭		389	72	7	1	5.3
県立学校養護教諭		52	8	3	0	6.5
栄養教諭		96	10	3	0	9.6

区分教科（科目）		受験者(A)	合格者(B)	補欠者	繰上者(C)	倍率(A／(B+C))
高等学校教諭	国語	133人	45人	11人	3人	2.8倍
	地理歴史	153	35	9	3	4.0
	公民	31	7	2	1	3.9
	数学	159	57	13	8	2.4
	理科	123	41	10	4	2.7
	美術	20	2	1	0	10.0
	保健体育	295	50	12	1	5.8
	家庭	35	12	3	1	2.7
	英語	110	55	13	9	1.7
	商業	28	15	3	1	1.8
	機械	6	4	0	0	1.5
	電気	10	6	0	0	1.7
	建築	2	2	0	0	1.0
	化学工業	4	1	1	0	4.0
	セラミック	2	2	0	0	1.0
	農業	14	7	2	1	1.8
	情報	61	6	2	1	8.7
	福祉	9	1	1	0	9.0
	看護	3	2	1	0	1.5

○　台風などの非常時における試験実施については、下記の愛知県教育委員会Webページに掲載します。

①　掲載予定時刻　試験前日午後5時から

②　Webページアドレス
https://www.pref.aichi.jp/site/kyoinsaiyou/

《参考》令和７年度（2025年度）採用愛知県公立学校教員採用選考試験の問題の一部を参考として情報提供いたします。

Ⅰ　第１次試験の小論文の問題

問題　次の文章を読んで、この筆者の考えをあなたはどうとらえるか。また、それを踏まえて、あなたはどのような教員になりたいと考えるか。９００字以内で述べよ。

長い間、小学校の教師をしていた私は、子どもたちや親、さらに同僚から、何度も「先生」と呼ばれてきました。大人たちは、はっきりと伝えたいことがあって呼びかけてきますが、子どもたちは忙しく走り回る先生に気を遣(つか)いながら、何かを尋(たず)ねたり、許可を得たりする時に「先生」と呼びかけてきます。大人のように話したいことを、そう簡単に表現しているとは限らないのが子どもです。乱暴なことばや裏返しのことば、言葉にはならないことばで思いを伝えようとしていることがたびたびでした。一人ひとりの言動の裏にある心の声は、聴こうとしないと聴くことはできず、見ようとしないと見ることはできません。

教育の仕事は、子どもたちの言動の裏に隠された一人ひとりの思いや願いを、その社会的な背景や生活も含めて深く理解することなしには成り立たないと思っています。そして、子どもたちの柔らかい胸の内を丁寧に感じとろうとする教師のアンテナは、「先生」と呼ばれ続けるなかで磨かれていくのではないかと思っています。

（池上　彰編『先生！』より、「渡辺恵津子著『ことばの裏にある子どもの声を聴く』」を抜粋）